

平成 30 年度 認定こども園やまなみ自己評価結果報告書

当園の教育・保育の目標（基本理念・保育方針）

基本理念

- ・思いやりのある心（園はこども達にとって、生まれて初めて知る社会である。互いの主義主張を示しながらも、共同生活する上でのルールを守り、思いやりのある心を持ちながら、協調性を身に着けて立派な社会人となっていく）
- ・健康な身体（何かをしようと言う意欲や、取り組むことについては気力と体力が一致して初めて、やり遂げていくことが出来る。何より健康な身体が大切である）
- ・自主性のある行動（ケガや事故から身を守り、とっさの状況判断が出来ることは生きていく上で必要不可欠のものである。自然とのふれ合いや、園での生活の中で基本的生活習慣を身につけ、自主性のある行動がとれる逞しさを持てるよう養育する）

教育・保育方針

- ・生（命）への畏敬の念を持ち、生あるものすべてのものを大切にする心を育てます。
- ・集団生活の中から、ルールと協調性が身につくように養育します。
- ・集団生活における個性を尊重し、元気とやる気を育てます。
- ・食事（食物）の重要性を知らせ、健全な心身の発達の育ちを助けます。
- ・人・地域・自然とふれあい、様々な体験を通し、自ら考え行動できる力を伸ばします。
- ・伝承行事や遊びを通し、たくましく生きる力と工夫の習得を目指します。

3. 今年度の重点課題

（1）保育内容の充実

人格の基礎部分の安定感を培う場である園での生活をどう守っていくのか、現在、教育・保育を考える上での大きな課題である。私たちは子ども達の年齢の発達の特徴を深く知ること、そのうえで子ども一人ひとりの発達のペースを守ってあげること、集団に 10 時間以上いる子ども達の立場にたって、ゆとりのある関わりを持つこと、生活体験を保育の場で保障していくことを目指す。

（2）園を利用する子どもの保護者への支援

様々な困難を抱える保護者も増加していることから、保護者からの相談の体制を、現在の「家族・子育て・家庭生活」がどのように変容しているかを、私たち自身が科学的にとらえ分析し、保護者との関係変化を深く理解していくことも大切であると考え。保護者に対して内容理解を丁寧に行い、子ども達の育ちへの共同を進めていく。

(3) 地域の子育て支援事業

園体験事業・異年齢児交流事業・世代間交流事業・出前保育など多くの地域交流事業に取り組み、地域の中に定着していく。地域の中での子育て支援の意味を積極的に職員間でも深めていく。

(4) 次世代を担う職員育成

職員一人ひとりの保育観の獲得とやまなみの教育・保育の継承の為に、園内研修を強化し進めていく。職員間のコミュニケーション、より一層の学びを創造し職員の世代交代について考えていく

(5) 労働環境の整備

働き続けるイメージをしやすくするための提案をはじめ、職員の生活実態に目を向け、ライフワークバランスの在り方を考えていく。

(6) 専門リーダーの取り組み

◎乳児保育・・・『これが、やまなみのコーナー保育！』と自信を持てるように実践する

◎幼児教育・・・運動量を上げる為に、どんな活動を取り入れるか

障害児・・・環境を整える ～落ち着いて過ごせる環境配置を考える～

◎食育・アレルギー対応・・・3食群ボードの使い方

◎保護者支援・子育て支援・・・職員が、保護者としての責任や子育ての楽しさを理解して伝える

◎保健衛生・安全対策・・・年間計画の保健目標をどのように実施していくか

総合的な評価結果

上記の計画に対して、

(5) 労働環境の整備では、職員室が完成したので休憩（給食）をそれぞれの勤務体制で取るようになった。

(6) 専門リーダーの取り組みでは、

◎乳児保育・・・『これが、やまなみのコーナー保育！』と自信を持って実践する為に、物的環境・人的環境の見直しをした。物的環境では、やまなみのコーナー保育定義を作り伝えていった。人的環境では、まずは私たち専門リーダーが、やまなみの人的環境の手本となるよう心がけ子ども達への言葉掛け、関わり方を見直し、重要性を伝えていった。

◎幼児教育・・・各クラス不足している運動量を上げる為に、どんな活動を取り入れるか話し合いをしながら、各年齢での達成目標を決めて取り組んだ。

3歳児・・・ジャングルジムやロッククライミング・両足跳び等を取り入れることで腕力・持久力・バランス感覚を養う

4歳児・・・のぼり棒や鉄棒、縄跳び等を取り入れることで、腕力・脚力を養う

5歳児・・・鉄棒や跳び箱、ドッジボール等を取り入れることで、腕力・脚力・持久力を養う

◎障害児・・・環境を整える～落ち着いて過ごせる環境配置を考える～をテーマに、ホワイトボードの書き方を、3・4・5歳児統一した。[がつ・にち・ようび・きゅうしょく・おやつ] マグネットに黒文字・[かつどう] マグネットに黒文字で青の縁取りにしたことで、子どもも職員も戸惑うことが無くなった。

◎食育・アレルギー対応・・・3食群ボードの使い方を子ども達に伝えて、活用する為に給食室前に設置して5歳児がメニューを確認しながらマグネットで貼っていった。アレルギーでは、食物アレルギーの園児の原因食物のチェック等の話し合いを毎月行った。

◎保護者支援・子育て支援・・・職員が、保護者としての責任や子育ての楽しさを理解して伝える事を目的として、親子で利用する絵本室の環境整備を行い、見やすさ・片付けやすさへと繋げ、絵本を通して親子の触れ合いの充実への取り組みをした。更に親子でのコミュニケーションが図れるように工夫を続ける。

◎保健衛生・安全対策・・・年間計画（手洗い指導・うがい指導・マスク使用など）伝える時期を明確化した。メンバーでの園児への保健教育（よく噛むことによる虫歯予防・手洗い指導）や嘔吐処理方法を動画に撮り、職員への周知を行った。

29年度で実施した利用者アンケート調査を今年度のも行った。

アンケートから分析できる保護者の思いや、園への要望は、認定こども園教育を振り返る貴重な意見であり、今後の保育・教育に活かしていき、調査報告をクラス掲示板に掲示する。

19. 福祉サービス第三者評価受審 ポラリスのアンケート

①利用者調査の概要	調査期間	平成30年3月5日～10日まで			
配布世帯数	205	有効回収数	138	回収率	67%
園についての総合評価	十分に満足している	83%			
	ある程度満足している	51%			

職員についての総合評価 十分に満足している 83%
ある程度満足している 52%

保護者の立場から、子どもを預けている園の一番良い所を1つだけお答えください。

職員の能力・人柄 63% 施設などの保育教育環境 39%
保育の内容 30%

②評価結果の概要

園の基本方針・職員・保育環境・食事・コミュニケーションの項目では、評価が高い項目が多かったが、健康管理・安全管理・感染予防の項目は、評価がやや低かったので今後安全に必要な情報が共有できるように検討していく

安全対策と職員全体の意識向上への取り組みを、今後もしていく。